小林 正人「サブプライム金融危機の機序と『サブプライム証券化機構』」2018年
第1章～第4章

問題提起

「SPLの返済延滞率の上昇の理由」(P45, 第3章冒頭) とはどういったことか。

選んだ理由

SPLの仕組みについて理解してまとめることが大切だと考えたから。

A グループ

SPLは90%以上が変動金利であり、しかも返済当初2年間だけ固定金利というタイプが50%以上を占めているという特異性がある。そして、FF金利が段階的に上昇したことに連動し、SPLの変動金利も段階的に上昇したため、超低金政策の影響による当初2年間の低い金利(ティーザー金利)後の返済額が大幅に増加し、返済延滞率が上昇した。

B グループ

2004年央から2006年央の2年間で4%近くLIBORが上昇したことで、FRBによる超低金政策によりプライムローン並に低かった2年間のティーザー金利期間を終えたSPL債務者達をペイメント・ショックが襲ったから。

C グループ

FRBによる超低金利政策の影響で、当初2年間は金利が低くなるという特徴を持つティーザー金利が使われた。これに加えて、FF金利の段階的上昇に連動して6ヶ月物LIBORが1%台から5%台へと急上昇したことで、SPLの返済金利も2年間にわたり段階的に上昇し、ティーザー金利の期間が終わったSLP債務者全体に対して全米で一斉かつ波動的なペイメント・ショックが襲ったから。

D グループ

FRBによる超低金利政策の影響で、当初2年間の金利がプライムローン並みに低くなるという特徴があり、これをティーザー金利と呼び、住宅ローン会社が市民をSPL利用へ誘うのに使われた。ティーザー金利期間の後の返済額が大幅に増加するペイメント・ショック、これが、FF金利の段階的上昇に連動した6ヶ月物LIBORの急上昇により、全米で一斉かつ波動的に起こったことで、SPL債務者の延滞率が上昇した。